

# 空知地区 学校経営研究会

- 1 目的 北海道小学校長会・北海道中学校長会，及び地区校長会が抱えている学校経営上の具体的な課題を取り上げ，その解決の方途を法制研究の視点から探る。
- 2 主催 北海道小学校長会 北海道中学校長会
- 3 後援 北海道教育庁空知教育局  
空知管内市町教育委員会教育長会
- 4 主管 空知校長会
- 5 期日 平成29年10月 3日（火）
- 6 会場 ホテルサンプラザ（岩見沢市）
- 7 参加者 空知管内小中学校長会員他（107名）
- 8 日程 12：30～13：00 受付  
13：00～13：30 開会式  
13：40～14：30 研究協議  
14：30～16：00 ワークショップ  
16：15～16：30 閉会式

## 9 研究協議

### ◇ 最近の教育情勢報告

全道：北海道中学校長会 事務局長 高橋寿輔 氏  
管内：空知校長会 事務局長 高橋 信 氏

### ◇ 空知地区からの質問・要望事項に対する回答

北海道小学校長会 対策部幹事 砂川昌之 氏  
北海道中学校長会 研修部副部長 木村佳子 氏

- ・ 外国語（英語）教育に関わる今後の展望  
（小学校英語科，中学生・英語教師の英検，等）
- ・ 主幹教諭配置の現状と実際の効果
- ・ 校務支援システムの導入状況と今後の展望

## 10 ワークショップ（13グループ）

### 協議題「学校力を高めるための協働・共育・共生の在り方と校長の関わり」

#### (1) 各学校における現状の交流

- ・ 経営ビジョンの共有のために，経営プランニングシートを提示し，学校全体で進める。
- ・ 経営プランニングシート（ロードマップ）の1年間の見通しをダイジェスト版にして作成し，職員に配布する。
- ・ ロードマップの作成，短期・中期サイクルの検証する。（授業改善への意識化，学校評価を通して，ゴールを明確にした目標設定）
- ・ 校長の思いを定期的に示しながら，経営の見える化を図っていく。

## (2) 効果的な取り組みの実践交流

### 【検証・改善サイクルに基づく「協働」】

- ・ ミドルリーダー会議を実施している。
- ・ 企画委員会を設立し、ミドルリーダーの育成と学校課題への対応をしている。
- ・ 30代・40代の教師を対象にした授業力向上の研修を市で取り組んでいる。
- ・ 主幹教諭や総務部会が機能している。
- ・ 主幹教諭が配置されたので、学校運営会議や調整会議を進めている。
- ・ 合同主任会議を開催している。職員会議は2ヶ月に1回の開催。個別の業務・行事・外部の業務を見直し、職員会議の効率化（回数減）、業務のスリム化を図っている。
- ・ 教職員との当初面談から、成果と課題の共有を進めている。
- ・ 人事評価シートを基にした面談を通し、正当な評価を行うことによって、教職員の意欲化を図っている。
- ・ 協働意識の高まりを期待し、校内組織のグループ制に向けた取組を行っている。  
(グループの取組から全校的な取組へ)
- ・ 『学びのパワーアップチーム』を基本に、学習規律の改善と授業改善を進めている。
- ・ 特別組織の取組を進めている。企画調整会議を設置し、学校運営上必要な様々な案件を検討し、職員会議で提案している。組織が機能することにより、会議・学校運営が円滑に進むようになった。組織の一員としての意識の高揚を図ることが今後の課題である。
- ・ 企画調整会議を立ち上げ、学校改善に関することについて話し合っている。
- ・ 学力・体力・外国語等、七つの推進委員会を設立した取組を行っている。

### 【授業の質的改善に基づく「共育」】

- ・ 「教えて考えさせる授業」の実践を進めている。ピアサポートの導入や道徳の授業での実践について経営方針として提示する。
- ・ ピアサポートを生かした学力向上のための授業改善を行っている。
- ・ 授業観察カードを活用し、授業規律の重点化を図っている。
- ・ 「隣の学級では何をやっているのか」を紹介しながら、学級間の格差をなくす工夫をしている。
- ・ 学級の良い様子を写真に収め、学校便りで紹介している。
- ・ 校内研修に『ワークショップ形式』を取り入れている。
- ・ 「道徳の教科化」に向けて、どのように評価を行うか、どのように記述するかが課題である。価値に対する評価は行わない。
- ・ 道徳は、研修を行わないと授業が上手くいかない。価値の押し付けになる可能性がある。
- ・ 「考え、議論する道徳」と言われているが、逆に、議論することによって自分の考えが消されたり、生かされなくなったりする可能性がある。
- ・ 英語の授業時数、35時間の確保方法や長期休業日の短縮等について検討中である。
- ・ 小中一貫教育について、英語教育に関わるカリキュラム作成の取組を行っている。
- ・ 移行期間の外国語の授業時数について、方向性が出ている市町とそうでない市町がある。移行期間の対応も大切だが、全面実施に向けてどうするのかという議論は避けられない。

### 【 学校間や学校と地域間の連携に基づく「共生」】

- ・ 各小・中学校の教務主任を集めての会議を今年度から実施している。
- ・ 市の体力向上委員会組織を中心に、体力向上に向けた幼小中一貫の「ダンス指導」を機軸にした取組を行っている。
- ・ P T Aと連携し、家庭学習の取組を進めている。P T Aでチェックシートを作成して取り組んでいる。
- ・ 他機関との連携を強力的に進め、地域等との連携を通して、学校、家庭、地域との連携を高めることが重要である。
- ・ 大学との連携の取組を行っている。体力テスト等、組織的な取組を進めている。
- ・ 来年度、『学校運営協議会』を導入する。
- ・ コミュニティ・スクールによる土曜授業の取組を進めている。
- ・ コミュニティ・スクールが地域主体で機能している。町内会のごみ拾いなどに、学校が協力するスタイルをとっている。また、防災訓練を地域主体で実施している。
- ・ コミュニティ・スクールについては、行政サイドが主導にならないと上手く進まない。
- ・ 小中が連携した取組として、パワーアップ委員会で学力向上策を検討している。

### (3) まとめ

- ・ 学校が目指しているもの、学校で求めているものと地域が求めているものにずれはないだろうか。丁寧な説明が必要である。
- ・ 道徳の教科化については保護者への十分な周知が必要であり、外国語科・外国語活動についてはA L Tにまかせっきりにしない授業展開を構築しなければならない。
- ・ 学校力を高めるためには、教職員の意識改革と学校経営参画への意欲づけが必要である。また、情報の共有化を高めるためのルールづくりも欠かせない。
- ・ 教職員の資質向上と経営参画意識の向上が喫緊の課題である。
- ・ ミドルリーダーの育成、解説型・一問一答式から主体的な学びへの転換、地域全体で担う教育活動など、実践的な取組について交流・確認することができた。
- ・ 教務主任の育成と組織的な学校づくり、徹底した授業改善による学力の向上など、各校の今後の取組を期待したい。

## 11 閉会式

ワークショップでの交流会に続き、空知教育局中井義務教育指導監から講評を受けた後に閉会式を開催。空知校長会岡本副会長の主催者挨拶をもって閉会した。